

書道展会場でテープカット



# 第46回宮城県芸術祭が開幕

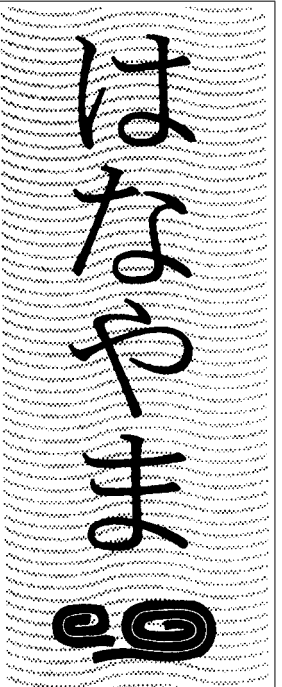
第四十六回宮城県芸術祭が九月二十五日の書道展・工芸展を皮切りに、十一月二十四日の閉会式までの約二ヶ月間開催された。また創立四十五周年を祝ってせんだいメディアテーク一階を会場に「芸術ふれあい広場Ⅲ」が開かれた。巡回展は、大河原町、登米市、栗原市、石巻市の四ヶ所で開催された。

## 書道・工芸展で皮切り

年 業  
周 事  
45 記念

### 「芸術ふれあい広場」

開場式は午前十時から、せんだいメディアテーク五階の書道展会場前で行われた。式には主催七団体の宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、県教



発行  
社団法人  
宮城県芸術協会  
(郵便番号 980-0803)  
仙台市青葉区国分町 3-3-7  
宮城県民会館内  
電話 (022) 261-7055  
FAX (022) 214-5184  
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp  
編集 小山喜三郎

## 閉会式は11月24日

第四十六回宮城県芸術祭の閉会式は十一月二十四日午後六時からホテル仙台プラザで開催された。授賞式のと各賞の受賞者を囲んで来賓と芸協会員の懇親会が持たれた。

長が「芸術四十五周年を記念して、芸術ふれあい広場Ⅲ」を開催する。従来も芸術祭を通して多くのふれあいがあったが、今年はさらに一歩進めて、県民参加型へ視点を変更していききたい。『芸術ふれあい広場Ⅲ』に期待を寄せている」と挨拶された。

テープカットのあと、書道展・工芸展が開幕。書道展では六部三百五十四点、工芸展では六十七点の力作を展示。開場式のあと書道展会場では高橋孤舟参事が、工芸展会場では渡邊つる子理事が解説を担当し、鑑賞者が耳を傾けた。今年の特徴は、各部門間の交流が耳目をひいた。芸協が創立して四十五周年となり、成熟期を迎えた象徴ともいえる。たとえば書道展の出品作

に『宮城県文芸年鑑』所収の作品や、工芸展の作品に水滴など文房清玩展が特別に展示されるなど各展に大きな工夫がみられた。

記念行事「芸術ふれあい広場Ⅲ」は九月二十七日、せんだいメディアテーク一階で開催された。フリーアナウンサー・赤間裕子さんの司会進行で午前十時三十分、小山喜三郎理事長の挨拶、次に華道、邦楽（尺八）と文芸のコラボレーションで開幕。舞踊と音楽のコラボレーションが終了した午後三時まで休みなしの公演に、訪れた人たちから拍手が続いた。芸術祭はこのあと文学散歩、絵画展、華道展、彫刻展、写真展、茶会、音楽会、長唄演奏会、文芸祭の開催ほか『文芸年鑑』が発行された。

また地方巡回展は絵画・書道展が大河原町仙南芸術文化センターと、登米市登米総合体育館で開催された。工芸展は、栗原文化会館で、写真展は石巻市雄勝硯伝統産業会館で開催された。

ほかに芸術祭参加行事は期間中に仙台三曲協会定期演奏会、洋舞合同公演があった。



理事長あいさつ

# ふれあい広場Ⅲ

芸協創立四十五周年記念「芸術ふれあい広場Ⅲ」が、九月二十七日(日) 十時三十分からせんだいメディアアテーク一階オープンスクエアで開催され、音楽(洋楽・邦楽・長唄)・舞踊・文芸・書道・茶道・華道の部門の垣根を越えた競演のステージが、華やかに繰り広げられた。

小山喜三郎理事長挨拶の後、早速(華道・邦楽(尺八)と文芸)のコラボレーション。尺八の演奏に乗せながら、秋の山を活けるのテーマのもと花が活けられ、さらにその模様を文芸部(短歌・俳句・川柳)の各会員が即詠した。その後、短冊や色紙に揮毫し、即詠の朗読と解説が行われた。

会場には、茶道部による呈茶席も設けられ、一気に華やいた雰囲気にも包まれた。

に池田櫻雲氏。池田氏は特設ステージ前いっぱいに拡げた八メートル×十六メートルの用紙に、超特大の筆二本を組合せて「仙臺」の文字を揮毫、さんさ時雨の元唄を吟じ、作品に気を入れる入魂の空手の型も披露された。

午後からは洋楽会員による(ソプラノ独唱)や、(尺八二部合奏)で「夕月」(箏・尺八)で「光陰」(箏・三絃・尺八)による「都の春」が演奏され、最後は舞踊と音楽のコラボレーション。舞踊部は、仙台・石巻から四団体が参加。それぞれが洋楽部会員四名によるピアノの生演奏に乗せて「マ・メール・ロア」「ウエストサイドストーリー」「スカラムーシュ」「スラブ舞曲」を華麗に踊り、またこの間、二台八手(ピアノ二台を使って四人で連弾)で「ファウストよりワルツ」の演奏もあった。フリーアナウンサー・赤間裕子さんの明るく爽やかな司会進行のもと、約百席設けられた客席も常に立ち見が出るほどの満員。芸術協会の力が見事に結集され、大盛況の裡に午後三時に終わった。(音楽部・洋楽 大崎健二記)



二台八手のピアノ演奏



即詠できましたか?



一服どうぞ





揮毫「仙臺」



おどる少女たち

---

---

# みんなの芸術

---

---



ひびく「都の春」



長唄「神田祭」



尺八の調べ



秋の山を活ける

# 仙台・大邱音楽交流会



迫力ある歌声に拍手

於：仙台市青年文化センター  
コンサートホール  
6月21日（日）PM4：00

韓国大邱から、イ・カンタ、ンテイ男声アンサンブルの一行が仙台を訪問されました。六月二十一日（日）午後四時より、仙台市青年文化センターに於て、仙台・大邱交流音楽会が開催され、満場の聴衆を魅了しました。

日・韓交流を謳い、社団法人宮城県芸術協会をあげて取り組んだこの音楽会は、開催時刻より随分早くからコンサート受付前に、お客様の長蛇の列ができる盛会ぶりであり、満席のホール内の熱気にも感

動を呼ぶコンサートとなりました。

一行はコンサート当日昼過ぎにホール入りしました。李インチョル団長以下十名の出演者は、ステージ上の立ち位置による響きの違いまで丁寧にチェックしていました。

団長と韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会事務局長のお話によると、大邱には音楽専用の音響効果の高い施設は無いということでした。青年文化センターコンサートホールを褒めてくださり、初めて使用するホールの響きについて、微に入り細に入り確かめて、納得の行くまでリハールを続けました。

本番ステージ前半は、イ・カンタン、ンテイ男声アンサンブルのメンバーによるソロ・アンサンブルで、カンツォーネやオペラからの作品を取り上げ、迫力のある魅力的な歌声に聴衆の拍手が続きました。

後半は芸協会員による演奏。最初は福原佳三さんのピアノ独奏、続いて鶴岡たみ子さんのマリンバ独奏、最後は渡部ジュディスさんの独唱と盛り沢山の内容に、聴衆も大

感動を呼ぶコンサートとなりました。

## 吉林省京劇公演

於：東京エレクトロンホール宮城



「孫悟空」舞台を飛ぶ

平成二十一年度の宮城県中国吉林省文化交流事業として中国吉林省京劇院宮城公演が、十月七日午後二時より東

感激の大きな拍手の渦の中、終演を迎えました。

「こんなに素晴らしい声は初めて聞いた」「聞きに来て得をした」などなど、お見送りのエンタランスで耳にしたことも報告し、会員の皆様に数々のご協力を頂きまことに感謝申し上げます。

（洋楽部）

京エレクトロンホール宮城で開催された。演目は日本でもなじみ深い「西遊記」や「水滸伝」であった。吉林省文化庁所属の任智富団長ははじめ十五名の団員が、色鮮やかな衣装を纏い軽やかな身のこなしに観客を魅了された。

吉林省と県との交流は昭和六十二年からで芸協は平成七年より加わっている。去年は当協会茶道部が交流を深めてきた。公演に先立ち前日の午後六時からホテルコムズ仙台で意見交換会が行われた。



# 宮城県芸術選奨受賞の喜び

宮城県は6月15日、東京エレクトロンホール宮城で平成20年度の宮城県芸術選奨の顕彰を行った。芸術協会会員では佐藤朱希、中村喜吉、平澤富子の三氏が芸術選奨を受賞した。また会員外では美術（写真）の飯沢耕太郎、舞踊の横田百合子、メディア芸術の宮藤官九郎の三氏が芸術選奨を受賞。美術（彫塑）の高橋健太郎、文芸（短歌）の駒田晶子、音楽（器楽）の高橋麻子、演劇の前田有作の各氏が芸術選奨新人賞を受賞した。

協会会員の受賞者のプロフィールと「受賞のことば」を紹介する。



日本画  
佐藤朱希氏  
(美術)

美術大学で日本画を学ぶ。河北美術展、日春展、日展での入選、入賞歴が多数ある。平成二十年十月、第四十回日展に「美野の陽々」を出品し、特選を受賞する。メインテーマは現代における母子像であり、人物間の複雑で微妙な心理的内容の象徴的造形化に特色がある。  
県内日本画界にあつて重要な役割を果たしていく中、自分自身の感性を信頼して作品を産み出す制作の在り方をさらに追求されることが期待される。

仙台市青葉区在住。

## 仲間からの励まし

このたびは「宮城県芸術選奨」という大変立派な賞をいただきまして誠にありがとうございます。

芸術協会では芸術祭や多くの行事を通して貴重な勉強をさせていただいております。

先生方諸先輩にご指導を賜り、友人やお仲間にも励ましていただきまして、厚く御礼を申し上げます。

これからも一層精進し芸術協会の発展に微力ながら尽力できればと願っております。今後共宜しくご指導をお願いいたします。



洋画  
中村喜吉氏  
(美術)

美術大学卒業後、安井賞、池田満寿夫記念芸術賞、宮城県芸術祭を始めとして、数々の国際展や国内展で受賞歴があり、注目を集めている。

一方で、県内新進作家達のリーダーとして「杜の都のアート展」の実行委員長を務めるなど文化活動の推進役として活発に活動している。

地元で根ざした文化活動の旗手として、また絵画活動の発展に貢献していく実行力の発揮が期待される。

五十四歳。仙台市青葉区在住。

## 発表の場の存在

ある展覧会の打ち合せの帰り、エレベーターの中で芸術協会の小山喜三郎先生に「ここ二、三年間の資料ある」と尋ねられました。この賞のはじまりでした。平成二十年度は実績もないので、先生は苦勞して推薦文を書いてくださったと思います。

県内外の方々を対象のこの賞はビックネームも多く、私か、という感じですが、一人で制作し発表し続けることは大変なことです。これまで切磋琢磨してきた仲間と発表の場の存在に感謝しています。



工芸  
平澤富子氏  
(美術)

長年県内の高等学校で教職に就き、美術教育の指導に携わってきた。これまで、日展では連続六回の入選を果たしている。河北工芸展の招待作家としても活躍しているとともに、日本現代工芸美術展に出品し、現代工芸賞を受賞した。また、新翔工芸会にも作品を発表している。今後も自身の制作意欲と向き合いながら、見る者へ感銘を与える作品制作が期待される。

仙台市泉区在住。

## いどむ心を育てて

青い空、蒼い海、寄せる大濤、碎け散る白波、緑の松越しに眺める唐桑の海が心に棲みついています。少女時代の私は、ただただ松風と潮騒を聞きに出かけていました。最近の私は優しさを表現したいと思うようになっていきます。

作品を評価していただき、嬉しさ反面畏れ多いことだと思っております。本当に嬉しいと思えるように、日々研鑽を積みいい作品を創ることにいどむ心を育てたいと自分に言い聞かせています。支えてくださった方々に感謝申し上げます。

平成二十一年度の宮城県芸術協会研修旅行は、七月五日から十一日までの七日間の日程で、中国湖南省の世界遺産「武陵源と馬王堆漢墓」など中国の大自然と長い歴史を回る旅であった。

武陵源研修旅行始末記

高橋通子副理事長を団長とする一行十五名は、五日午後仙台空港を飛び立ち夏雲の日本海を越えて、意気揚々と上海空港に着いた筈だったが、新型インフルエンザの水際作戦とやらで、上海空港にしばし足止めされ、出鼻を挫かれてしまった。気を取り直して国内線に乗り換えたものの張家界空港へ着いた時は既に深夜。一行を乗せたバスは大陸の漆黒の闇に吸い込まれていった。宿に着いたのは午前零時ころ。「こんなものだろう」と呟いてベットに入った。

二日目は「天子山自然保護区」。世界一の規模を誇る百龍エレベーターで一気に三二六メートル上昇して袁家界山頂に立った。最初に目にした魂迷台からの景色に、まず度肝を抜かれた。眼前に広がる奇岩奇峰の列はまさに仙境と云うにふさわしい景観。勿論、何どもシャッターを押したことは云うまでもない。そして天子山へ移動。天子山には「峰三千」と呼ばれる砂岩群峰が連なり「雲海、峰をトロツコ電車で往復。両側に聳える仙女拝観音、採葉老人、寿星迎賓、三姉妹岩などさまざまな岩峰を楽しんだ。三日目は「張家界国家森林公園」内の「黃石寨」と「金鞭谿谷」の見学。黃石寨

れてしまった。山上レストラン「黃石寨賓庁」で昼餼。茸料理、金鞭魚料理等に舌鼓を打った。ガイドの孫さんが「肉は蛙だよ」というまでの話。四日目、「索溪峪自然保護区」の中国一の鍾乳洞「黃龍洞」を探検して長沙市へ。日本人

観光客は足をほとんど向けない街だとか。夕食は千人が食事可能という世界最大のレストラン西湖楼で摂る。地酒は土家人（フジャーレン）が五二度、竹葉酒は四五度と強い。美味いが酔いの回りが早いのが欠点。

五日目、湘江の中洲公園を散策後、中国古代四大書院の一つ嶽麓書院を訪ねた。西暦九七六年に建てられた書院。世界最古の大学で毛沢東など中国歴代の指導者を輩出しているところ。「ここに立っただけで頭が良くなるのよ」とご婦人に囁かれ私は喜んで騙された。午後は湖南省博物館を訪ねる。三十七年前馬王堆漢墓が発見され、二一〇〇年前の王族の女性が腐敗することなく完全な状態で発掘されたとはいふ。その女性との面会を果たし中国の遠い歴史に思いを馳せた。

六日目、上海に移動。歴代の名品に満ちあふれた上海博物館を見学。青銅器、陶磁器、書画等の世界的逸品に眼を奪われてしまった。中国が秘めている底力を見せつけられた。

夕方、南京西路商店街を散策。街の風景を撮っていたら怪しげな男女が「遊びに行こう」と近づいてきた。中国が抱える裏事情の一面だ。

中国最後の晚餐は、黃浦江に沿ったレストラン「廊亦舫」。夜の帳が降りるにつれ川岸のネオンが輝きだす。最高のロケーションを眺めながら盃を傾け、「短い旅」を振り返り「来年も来ようね」と誓い合った。

七日目、いよいよ帰国。十四時三十分上海空港を離陸。十四時三十分天子山自然保護区に到着。旅は終わりを告げ、充実した時間を素晴らしい仲間と過ごしたという、大きな満足感だけが残った。

さり気なく握手して去り  
夏終わる 光一

百龍エレベーターで袁家界山頂へ



文・写真 佐々木光一 (写真部)

林、日の出、冬景色」の四つの絶景があると云われている。欲張らずに「峰林」だけを愉しませてもらった。山を降りると溪谷美だ。「十里回廊」と呼ばれる溪谷

(一〇九二m)の山頂展望台に登ると、民族衣装を着た白族の少女が笑顔で迎えてくれた。何とも可愛い少女なので一緒に写真に納まったら、モデル料として三十元も請求さ

たという。その女性との面会を果たし中国の遠い歴史に思いを馳せた。

六日目、上海に移動。歴代の名品に満ちあふれた上海博物館を見学。青銅器、陶磁器、書画等の世界的逸品に眼を奪われてしまった。中国が秘めている底力を見せつけられた。

夕方、南京西路商店街を散策。街の風景を撮っていたら怪しげな男女が「遊びに行こう」と近づいてきた。中国が抱える裏事情の一面だ。

中国最後の晚餐は、黃浦江に沿ったレストラン「廊亦舫」。夜の帳が降りるにつれ川岸のネオンが輝きだす。最高のロケーションを眺めながら盃を傾け、「短い旅」を振り返り「来年も来ようね」と誓い合った。

七日目、いよいよ帰国。十四時三十分上海空港を離陸。十四時三十分天子山自然保護区に到着。旅は終わりを告げ、充実した時間を素晴らしい仲間と過ごしたという、大きな満足感だけが残った。

さり気なく握手して去り  
夏終わる 光一

# ミュージックフェスタ2009 石巻市民会館

石巻芸術文化祭・みやぎミュージックフェスタ2009  
i・n石巻が「夢へ祈りの道はるか」と題し、十月二十五日（日）十二時より石巻市民会館で開催された。

第一部は石巻文化協会が中心で日本の伝統文化の箏曲と日本舞踊。出演は生田流箏曲「糸の会」、藤扇流裕園会、高嶺流かつら会、江戸芸かつぱれ「櫻川后萌社中」、山勢松韻会宮城支部、藤間流京緑会、奈富士会、喜三則会、藤石会の各社中。

第二部は当協会音楽部（洋楽）と石巻文化協会員との共演。演奏は当協会員斎藤功一（ギター）、古溝徹（サクソフォン）、山田みづほ（フルート）、佐藤順子（ソプラノ）、渋谷るり子（ピアノ）の各氏。小野こう子社中（箏曲）杉本富美子音楽教室、石巻マンドリーノ（マンドリン・ギター）石巻合唱連盟（石巻地方二十九団体）の演奏と合唱。

水沼慎一郎（作曲家）新作「奥の細道」が佐藤順子のソプラノ独唱で発表された。立することが承認された。しかし定款検討小委員会から答申された改革の諸問題は、懸案事項として引き継がれた。二十年度では理事会が、定款、財政、将来展望の三分科会に分かれ、夫々に幾度となく討議を重ねて年度末に結論をまとめている。

た上で、公益法人と一般法人とのメリットとデメリットを比較検討し、理事会にはかつてから会員の皆さんに提案することになる。芸術協会の将来を決める大切な分岐点の選択となりますので、検討委員会の進行状況を、次回にお知らせします。皆様の活発なご意見をお待ちしています。

## 「ゲイジュツしまじょう」

### 絵画部と県民交流

県民と当協会絵画部が美術交流を目的として「秋の一日ゲイジュツしまじょう」をテーマに十月十日（土）仙台市戦災復興記念館とせんだいメディアテークを各会場にして開催された。

#### I. 人物クロッキー

山岸俊夫、大内欽二、櫻田勝子の三氏を迎え、モデル（裸婦）を使って初心者でも簡単に人体をとらえられるように描く講習会がもたれた。

#### II. ギャラリートーク

同日午後三時から五時までせんだいメディアテーク五階・六階を会場に成人を対象に行われた。開催中の絵画展

の作品を見ながら今日の絵画、美術事情や展示に係る話を東北生活文化大学教授北折整氏が披露した。

#### III. 絵画楽園

同日一時から三時まで同会場で児童・生徒を対象に美術とは楽しいものと実感できる体験対話形式の鑑賞会が行われた。講師は大場仁、今井宣子の両氏がつとめた。

### 北信濃への文学散歩

第四十六回県芸術祭の文学散歩「北信濃路の文学紀行」が九月二十九（火）三十日（水）の一泊二日の日程で行われた。六時間あまり高速度を乗り継ぎ、まず訪れたのは「軽井沢高原文庫」。霧雨に濡れながら軽井沢を愛した文人を

偲んだ。その後小諸城址懐古園・藤村記念館を見学。夕闇のせまる頃千曲川に沿う戸倉上山田温泉亀谷本店に到着。二日目は「無言館」「一茶館」を訪ねた。小布施で昼食後一路仙台に向う。午後八時仙台駅にて全員無事解散。今回は移動の距離が長かったが二十八名の参加者は秋の北信濃を十分に堪能し心に残る旅であった。

### 「公益法人検討委員会」について

#### 委員長 小山 喜三郎

理事長 小山 喜三郎

平成十九年度の総会で定款の一部改正が提案され、定款の変更は会員数の四分の三ではなく、三分の二の同意で成

## 謹 弔

書道部	山田耕与殿
書道部	平成20年9月
茶道部（織田流）	渡辺南童殿
書道部	6月4日
書道部	駒沢翠雲殿
書道部	6月4日
書道部	浜田一堂殿
書道部	6月10日
絵画部（洋画）	遠藤和伸殿
絵画部（洋画）	7月11日
絵画部（洋画）	小野寺伸夫殿
絵画部（洋画）	8月23日
文芸部（俳句）	太田みつ子殿
文芸部（俳句）	8月27日
文芸部（短歌）	三浦ひろ殿
文芸部（短歌）	11月4日



事務局 日誌

会務報告

- 6・4 東北・北海道芸術文化団 体協議会総会
- 平成20年度事業報告及び収支決算について
- 平成21年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 7・15 理事会
- 日韓交流事業(音楽会)について
- 新入会員の承認について
- 講演会 公益法人制度の改革について
- 9・7 理事会
- 45周年記念行事(芸術ふれあい広場Ⅲ)について
- 県補助金(文部科学省)の文化芸術振興プランについて
- 公益法人制度改革関連法に基づく一般社団法人及び公益社団法人の方向等を検討する委員会の設置について

- ☆第45回宮城水彩展栗原展 8月28日～9月5日 栗原文化会館
- ☆第28回新芸術東北展 9月4日～9月9日 せんだいメディアアテーク
- ☆山田明於絵画教室第10回合同展 9月4日～9月9日 せんだいメディアアテーク
- ☆第24回都山流尺八演奏会 9月6日 仙台市若林区文化センターホール
- ☆第34回宮城新協美術展 9月10日～9月15日 東京エレクトロンホール宮城 展示室
- ☆第45回宮城水彩展栗原展 9月18日～9月23日 せんだいメディアアテーク
- ☆第54回仙三曲協会定期演奏会 10月11日 仙台市民会館大ホール
- ☆平成21年度(第32回)大伴家持のつとめ短歌大会 10月11日 東北歴史博物館
- ☆ウイーン・ザイルトゥオーゼンと仲間たち 10月13日 東京エレクトロンホール宮城
- ☆第18回河北工芸展 10月13日～10月19日 さくら野百貨店
- ☆日本歌曲と朗読の夕べ 10月15日 イズミティ21小ホール
- ☆和京会書展 10月16日～10月21日 せんだいメディアアテーク
- ☆池田和京書作展 10月16日～10月21日 せんだいメディアアテーク
- ☆第19回硯のふるさと東北書画展 10月17日～11月8日 石巻市雄勝硯伝統産業会館
- ☆創立20周年記念第10回桃源書展 10月23日～10月26日 せんだいメディアアテーク
- ☆第29回「日本の調べ」箏曲演奏会 10月24日 仙台市青年文化センター シアターホール
- ☆第16回彩泉会洋画展 10月25日～10月29日 仙台市福祉プラザ2階展示ロビー
- ☆チルコロ・フローラ第44回マンドリン定期演奏会 10月25日 仙台市青年文化センター シアターホール
- ☆「韓・日現代美術交流展」 10月27日～11月3日 駐仙台大韓民国総領事館
- ☆第8回夢・楽描き展 10月30日～11月4日 せんだいメディアアテーク
- ☆ART WAVE 2009 in 仙台 10月30日～11月4日 せんだいメディアアテーク
- ☆ケレルバレエアトリエ第15回発表会 11月3日 仙台市青年文化センター シアターホール
- ☆二科会写真部「第34回東北公募展」 11月5日～11月8日 八戸市美術館
- ☆第34回素心会書道展 11月6日～11月11日 せんだいメディアアテーク
- ☆第34回教育書道研究会学生部書道展 11月6日～11月11日 せんだいメディアアテーク
- ☆第37回書道展 11月6日～11月8日 登米市迫体育館早球室特設ホール

- ◇再興第94回院展入選(日本画)大泉佐代子、櫻田勝子
- ◇第54回日本伝統工芸展入選(工芸部)陶芸 浅野七志、橋本昌彦(木工)本間潔(七宝)安藤令子、高橋通子、神澤有希子
- ◇第41回行動美術展(洋画)▽会友奨励賞Ⅱ伊藤信義▽会友推薦▽若生正子▽入選Ⅱ高橋幸造
- ◇第18回河北工芸展(工芸部)▽宮城県知事賞Ⅱ(陶芸)中山晴代▽宮城県教育委員会教育芸術協会賞Ⅱ(宝織)あつみ智子▽NHK仙台放送局長賞Ⅱ(陶芸)鳥見美由紀
- ◇中日友好芸術交流▽特別賞Ⅱ(書道部)菊田翠谷(洋画)小山喜三郎(工芸部)高橋通子(洋画)早坂貞彦
- ◇第41回日展▽文部科学大臣賞Ⅱ(日本画)能高和明▽無鑑査入選Ⅱ(日本画)佐藤朱希▽入選Ⅱ(日本画)安住小百合、天笠慶子、奥山和子、菅井糸子、吉田輝、七宮牧子

- 【絵画】(日本画)神吉外茂子(洋画)鎌本美樹子(工芸)矢野美枝子(洋画)陶芸)安藤令子(書道)大友松鶴(筆)守山薫風(宏子)丹野晃、阿部華石(義一)、相澤紅蕙(かほる)【華道】(草月)千葉雨香(さつ子)【本原流】州流 鈴木一榮(栄子)【音楽】(洋楽)佐藤ミエ(邦楽)澤村松聲(香代子)(長唄)杵屋和加栄(庄司栄子)、今野博子、小田高英子【文芸】(短歌)生江良康、鹿又寛、二宮以義(俳句)浅沼真規子、矢幅正男【茶道】(表千家)岩佐宗喜(喜久子)【三彩流】森宗波(治子)【石州清水流】岩淵輝彦(照子)【文雅静庵流】相原静恵(和枝)【宗偏流】奥泉宗京(京子)【写真】高橋史明、小林貞夫

退会会員

街路樹が色づき秋の深まりを感じる季節となった。この時季を彩るものに宮城県芸術祭がある。今年は四十八回目。県民とのさらなるふれ合いと参加を目ざして、九月二十五日からせんだいメディアアテークを中心会場として開幕した。二か月にわたるロングラン。▼各部門において、会員同士の交流を深める絶好の機会であり、貴重な発表の場となる。ふれ合いがさらなる発表につながるだろう。(淑)

▼今年の芸術祭は部門間の交流が目立った。書道部と工芸部による文房清玩展。華道部と彫刻部によるコラボレート。写真部では、写真に文芸部員が作品を詠むというこころみ。その極めつきは九月二十七日にせんだいメディアアテークで開催された「芸術ふれあい広場Ⅲ」でのコラボレーション。華道と邦楽と文芸の交流。洋楽と舞踊。出演者は緊張感の中での純度の高い自己表現。観客は会場をつつむ熱気身をひたし、そこに一体感のふれ合いが生まれた。(佳)

あとがき